

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども家族みらい応援団 オバフロ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年2月18日 ～ 令和7年3月3日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年9月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・指導訓練室等の広さを確保 ・基準以上の職員の配置 ・子どもたちが清潔で、心地よく過ごせる環境作り	・指導訓練室等の広さを確保し、活動ごとに机のレイアウトを変更するなど活動しやすいように工夫するとともに、職員の配置人数を充実させ、職員同士連携をしている。 ・利用の都度、消毒や清掃を行い、子どもたちが清潔で、心地よく過ごせる環境作りをしている。	・個室がないため、必要に応じたパーティションの設置等の検討。 ・更に充実を図るため、職員の新規採用も検討。 ・子どもたちが見てわかる『視覚支援』への取り組み。 ・パーティションや室内用テント等設置による子どもたちが落ち着ける場所の確保。
2	・見学・体験時や利用契約時等、じっくり時間をかけてアセスメントを行い、同アセスメント結果を職員間で共有し、意見や気付きを出し合い、話し合いをしている。 ・職員会議に参加出来ない非常勤職員にも情報を共有している。	・年齢に応じたアセスメント整理シートやスキル確認シートを使用し、子どもの適応行動の状況を確認し、子どもの支援に必要な項目を適切に設定している。 ・毎週木曜日の午後を意見交換等の時間として設け、職員会議等を実施、支援に対する認識の共有等実施している。	・全職員が足並みを揃え、同じ方向性で療育が出来るよう、より職員間でコミュニケーションを図る。 ・活動プログラムが固定化しないよう知識等を増やすとともに、全職員がその活動の目的とねらいを意識して支援していく。 ・役割分担等詳細な打ち合わせを行い、連携を密にする。
3	・送迎時や保護者が訪問された際等々、保護者と子どもの状況について伝え合い情報を共有している。 ・口頭のみでなく、連絡帳アプリを使い、写真付きで施設での状況を伝えるなど、保護者と共通理解を持てるよう努め、保護者と連携を密にしている。	・見学・体験時や利用契約時には、当施設開所の経緯やコンセプト等を丁寧に説明するとともに、子どもや保護者の意思を尊重し、子どもや保護者に寄り添うことを意識している。 ・関わりを大切にし、SNSや連絡帳アプリを活用して情報を発信し、保護者と情報を共有している。	・相談しやすい環境を作り、保護者との人間関係を構築し、困りごとはないか等々事あるごとに確認していきたい。 ・個別懇談会や保護者同士が交流することが出来る保護者会や各種イベント等を実施、更に保護者の方と関われる機会を設けていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレント・トレーニング等ご家族に対する家族支援プログラムやご家族も参加できる研修会、保護者同士が交流することが出来る機会等を設けられていない。	・開所して間がなく、現在は日々の療育、見学・体験への対応、契約等の業務で多忙であり、そこまで手が回らない。 ・研修会等を実施するにあたり、子どもを連れて参加するとなった場合等の人員不足。	・職員の新規採用による人員の確保。 ・安全に研修会等実施することができる体制作り。
2	保育所や幼稚園等との交流等他の子どもと活動する機会を設けられていない。	子どもの状況をよく把握する管理者が幼稚園等に赴き、幼稚園等での状況を確認し、支援内容等の情報共有と相互理解を図ってはいるものの、上記同様、そこまで手が回っていない。	利用児童が通う幼稚園の中に管理者が実習を受け、更に自身の子どもを通わせていた幼稚園もあることから、今後更に連携を密にしていきたい。
3	地域に開かれた事業運営が出来ていない。	上記同様、そこまで手が回っていない。	自治会を通じて、地域で開かれる祭りや事業所の行事に地域住民を招待する等して、地域住民と交流する機会を増やしていきたい。